

宛

宛は、人が膝を曲げた形^ㇿを表わす^匚と肉と家の会意形声字です。“人が膝を曲げてやっと食べていられるだけの家”という意味の字で、“小さな家”が本義です。“自宅”の意味に使います。転じて“あて”という使い方を生じました。部首としては、“匚”の“屈曲”の意味に多く使われます。

蜿は、屈曲の意味の^宛と^虫との会意形声字で、“蛇のように屈曲する”という意味の字です。蜿蜒、蜿々長蛇の列。

豌は、屈曲した蔓になる豆、つまり、^{えんどう}豌豆です。^宛と^豆との会意形声字。

婉は、婦人のしなやかに屈曲する様を表わした字です。「^{エンゼン}婉然」は婦人のしなやかで美しい様子。「^{エンキョク}婉曲」は、直接に物事を言わずに遠まわしに言う意味の言葉です。

怨は、人の仕打ちに対して、腹を立てながらも、直接に怒りを表わすことができないで、遠まわしに“うらみごと”を言って、心にわだかま

りを持つことです。宛の意味の^宛と心との会意形声字です。怨恨。

鴛は、婉然たる鳥という意味で“おしどり”を言います。おしどりは常に仲良くつがいで泳いでいますので、“仲の良い夫婦”のたとえに用いられます。「^{おしどり}鴛鴦」。鴛は雄、鴦は雌を指しています。

苑は、草花の美しく咲き乱れたところという意味の、草と^{エン}宛との会意形声字です。“はなぞの”です。動物を飼う“その”は、^{ユウ}園いがあるの^園で園と言います。苑園。「園」は、宛と園とを兼ねた意味の字です。